



## アラームについて

---

この章では、Cisco Unified Serviceability のアラームについて説明します。次の項で構成されています。

- [アラームについて \(P.3-2\)](#)
- [アラームの設定 \(P.3-2\)](#)
- [アラーム定義 \(P.3-3\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.3-4\)](#)
- [アラーム設定チェックリスト \(P.3-4\)](#)
- [参考情報 \(P.3-5\)](#)

## アラームについて

Cisco Unified Serviceability のアラームを使用すると、システムの実行時の状況と状態を表示して、システムに関連する問題をトラブルシューティングできます。たとえば、Disaster Recovery System に関する問題を特定できます。アラームの情報には、説明と推奨処置、およびアプリケーション名、マシン名などが含まれているため、ローカルの Cisco Unified Communications Manager 以外で起こった問題をトラブルシューティングするときにも役立ちます。

アラーム インターフェイスを設定する際には、アラーム情報を複数の場所に送信することと、それぞれの場所に固有のアラーム イベント レベル (Debug から Emergency まで) を指定することができます。アラームは、Syslog Viewer (ローカル syslog)、Syslog ファイル (リモート syslog)、SDI トレース ログ ファイル、SDL トレース ログ ファイル (Cisco CallManager サービスおよび CTIManager サービスのみ)、またはすべての宛先に送信できます。あるサービスからアラームが発行されると、設定した場所 (およびアラーム定義のルーティング リストで指定された場所) に、アラーム インターフェイスからアラーム情報が送信されます (たとえば SDI トレースなど)。システムは、SNMP トラップの場合と同様にアラーム情報を転送することも、最終宛先 (ログ ファイルなど) へ書き込むこともできます。



### ヒント

リモート Syslog サーバとして Cisco Unified Communications Manager サーバを指定しないでください。このサーバは他のサーバからの syslog メッセージを受信できません。

SDI トレース ログ ファイルまたは SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラームを収集するには、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で Trace and Log Central オプションを使用します。ローカル syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT で SysLog Viewer を使用します。

## アラームの設定

特定のノード上で Cisco Database Layer Monitor などのサービスにアラームを設定したり、クラスタ内のすべてのノード上で特定のサービスにアラームを設定できます。

サービスにアラームを設定するには、アラーム イベント レベル (Error など)、およびシステムがアラーム情報を送信する場所 (Syslog Viewer、つまりローカル syslog など) を選択します。イベント レベルを選択すると、収集されるアラームのタイプを絞り込み、Syslog ファイルおよびトレース ファイルが過負荷になるのを回避できます。アラーム設定とアラーム定義の関連付けの詳細については、P.3-3 の「アラーム定義」を参照してください。

## アラーム定義

参照のために使用されるアラーム定義は、アラーム メッセージの内容を説明します。つまり、メッセージの意味とその回復方法を示します。アラームに関する情報を入手するには、[Alarm Definitions] ウィンドウを検索します。いずれかのサービス固有のアラーム定義をクリックすると、そのアラーム情報の説明（管理者が追加したユーザ定義のテキストを含む）と推奨処置が表示されます。

Cisco Unified Serviceability に表示されるアラームすべての定義を検索できます。問題のトラブルシューティングを支援するため、対応するカタログに存在する定義の内容には、アラーム名、記述、説明、推奨処置、重大度、パラメータ、モニタなどが含まれています。

システムでアラームが生成されるときにはアラーム情報内のアラーム定義名が使用されるので、アラームを特定できます。アラーム定義では、アラーム情報が送信される場所を指定するルーティング リストを表示できます。ルーティング リストには、次に示す場所を含めることができます。これらの場所は、[Alarm Configuration] ウィンドウで設定できる場所に対応しています。

- **SDL** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報が **SDL** トレースに送信されます。
- **SDI** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報が **SDI** トレースに送信されます。
- **Sys Log** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定し、リモート **syslog** サーバのサーバ名または IP アドレスを入力すると、アラーム情報がリモート **syslog** サーバに送信されます。
- **Event Log** : このオプションに対してアラームを有効にし、[Alarm Configuration] ウィンドウで適切なイベント レベルを指定すると、アラーム情報がローカル **syslog** に送信されます。情報は、Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool (RTMT) の Syslog Viewer で表示できます。
- **Data Collector** : アラーム情報がリアルタイム情報システム (RIS Data Collector) に送信されず (アラート目的のみ)。[Alarm Configuration] ウィンドウでこのオプションを設定することはできません。
- **SNMP Traps** : SNMP トラップが生成されます。[Alarm Configuration] ウィンドウでこのオプションを設定することはできません。



**ヒント** SNMP トラップの場所がルーティング リストに表示されている場合、アラーム情報は CCM MIB SNMP エージェントに転送されます。CCM MIB SNMP エージェントは、CISCO-CCM-MIB の定義に従って、適切なトラップを生成します。

[Alarm Configuration] ウィンドウで特定の場所に対して設定されたアラーム イベント レベルが、アラーム定義に一覧表示されている重大度以下の場合、アラームが送信されます。たとえば、アラーム定義の重大度が **WARNING\_ALARM** であり、[Alarm Configuration] ウィンドウで特定の宛先に対するアラーム イベント レベルをそれより低いイベント レベルの **Warning**、**Notice**、**Informational**、または **Debug** として設定した場合、対応する宛先にアラームが送信されます。アラーム イベント レベルを **Emergency**、**Alert**、**Critical**、または **Error** として設定すると、対応する宛先にアラームが送信されません。

Cisco Unified Serviceability の各アラーム定義には、追加説明または推奨処置を含めることができます。管理者はすべて、追加された情報にアクセスできます。管理者は、[Alarm Details] ウィンドウに表示される [User Defined Text] ペインに直接情報を入力します。標準の水平方向および垂直方向のスクロールバーで、スクロールがサポートされています。Cisco Unified Serviceability によって情報がデータベースに追加されます。

## アラーム情報の表示

アラーム情報を表示して、問題が存在するかどうか判断します。アラーム情報を表示するために使用する方法は、アラームの設定時に選択した宛先によって異なります。SDI トレース ログ ファイルまたは SDL トレース ログ ファイルに送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT の Trace and Log Central オプションを使用するか、テキスト エディタを使用します。ローカル syslog に送信されるアラーム情報を表示するには、RTMT の SysLog Viewer を使用します。



### ヒント

Cisco Unified Communications Manager の場合は、CiscoWorks2000 レポート ビューアを使用して、リモート syslog メッセージを表示することもできます。

## アラーム設定チェックリスト

表 3-1 は、アラームを設定する手順の概要を示しています。

表 3-1 アラーム設定チェックリスト

設定手順	関連する手順と項目
<b>ステップ 1</b> アラーム情報が必要なサーバおよびサービスを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アラームについて (P.3-2)</li> <li>サービスに対するアラームの設定 (P.4-1)</li> </ul>
<b>ステップ 2</b> アラームの宛先を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>SDI ログには、すべてのサービスから送信できます (ただし、[Trace] でも設定する必要があります)。</li> <li>SysLog Viewer には、すべてのサービスから送信できます。</li> <li>SDL ログを使用できるのは、Cisco CallManager サービスと Cisco CTIManager サービスのみです。</li> <li>syslog メッセージをリモート Syslog サーバに送信するには、リモート Syslog 宛先のチェックボックスをオンにし、ホスト名を指定します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスに対するアラームの設定 (P.4-1)</li> <li>アラームの設定 (P.4-5)</li> </ul>
<b>ステップ 3</b> アラーム イベント レベルを選択します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>サービスに対するアラームの設定 (P.4-1)</li> <li>アラームの設定 (P.4-5)</li> </ul>
<b>ステップ 4</b> 必要に応じて、アラームに定義を追加します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>アラーム定義 (P.3-3)</li> <li>アラーム定義の表示および更新 (P.5-1)</li> </ul>
<b>ステップ 5</b> アラームの宛先として SDI トレース ファイルまたは SDL トレース ファイルを選択した場合、RTMT の Trace and Log Central オプションを使用してトレースを収集し、情報を表示します。	<i>Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド</i>
<b>ステップ 6</b> アラームの宛先としてローカル syslog を選択した場合、RTMT の SysLog Viewer でアラーム情報を表示します。	<i>Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーションガイド</i>
<b>ステップ 7</b> 説明と推奨処置については、対応するアラーム定義を参照します。	アラーム定義の表示およびユーザ指定の記述の追加 (P.5-2)

## 参考情報

### 関連項目

- [サービスに対するアラームの設定 \(P.4-1\)](#)
- [アラーム定義の表示およびユーザ指定の記述の追加 \(P.5-2\)](#)
- [System Alarm Catalog の説明 \(P.5-3\)](#)
- [CallManager Alarm Catalog の説明 \(P.5-4\)](#)
- *Cisco Unified Communications Manager Real-Time Monitoring Tool* アドミニストレーションガイド

